

# 慈眼寺たより

第27号  
令和元年12月  
春日井市下市場町  
「慈眼寺」  
電話 81-6801  
編集 伊藤秀文

## ☆癌と宣告されて★

金ケ口町 今井正

七年前、近くのかかり付け医院で後期高齢者の検診を受けた。後日、医師から「PSAの数値が大変悪い。前立腺の癌の疑いがある」と告げられた。PSAの数値が千以上だと精密検査が必要だが、自分の場合は十に近い数値と聞き「これはヤバイ」と不安が過った。

前立腺肥大とか前立腺癌が高齢者の男性に多いことは知っていた。これまで自覚症状が皆無で健康にはそれなりの自信を持っていた自分が、よもや前立腺の癌の被疑者になろうとは夢想だにもしなかった。医師は市民病院の泌尿器科で精密検査を受けるようにと告げ紹介状を渡してくれた。市民病院の泌尿器科の待合室は二十名ほどの人が席を埋めていた。

看護師さんが「これから先生が確定診断を行うので、これに着替えて下さい」とガウンを差し出した。確定診断とは癌と確定するため検査で針生検と言われ、直腸から針を刺し入れて前立腺組織(細胞)を採取する医療行為である。医師は安藤先生で、約三十分の診断の間、目隠しされ暗闇の中で腹の中を掻き回されているようで気持ちが悪かった。一週間後に検査結果が出る。不安な気持ちで病院を後にした。

指定された日時に病院に赴き医師の説明を受けた。医師から「六ヶ所から組織を採取し、そのうちの四ヶ所から癌細胞が見つかった。残念ながら前立腺の癌だ。放射線治療と抗癌剤治療がある。どちらにするか」と単刀直入に投げかけられた。その時、もう男性の平均寿命ま

で生きられたし、もういい。どちらの治療も嫌だったので他に治療法はないかと逆質問した。医師は「ホルモン注射を打つ治療法があると返してきた。即座に「それにして下さい」と伝えた。ホルモン注射は三カ月毎に打つ必要があるもので、年に四回病院に出向くことになった。

この日、初回の注射を打つことになり化学療法室に入った。注射はお臍の際に一瞬のうちに打たれた。会計の窓口で支払った額は九千円ほど。一割負担だから、国の治療費はこの十倍である。何だか申し訳ない気がした。ホルモン注射を打ち始めてから何とPSAの数値は0、001と極めて安定している。この状態が丸五年続いた時点で医師は「ホルモン注射は六カ月ごとに」と告げた。自分には朗報である。2019年は自分には米寿の年となる。病変の治療のお陰で元気で新しい年が迎えられる。今年も健康面では何不自由なく過ごすことができた。人生の最終章を感謝の気持ちで謙虚に穏やかに日々を重ねていきたいと念じている。

## 〈青柳歌壇・俳壇〉

●眠られぬ真夜をパソコン開きおり  
我に付き合うインターネットは

た

●ありがたや米寿の年まで生きられた  
目指すは卒寿新たな一歩

●妻逝きて九十年の月日経つアルバ  
ム捲り在りし日偲ぶ

今井正

●慈眼寺の石仏一列菊一列  
点々と冬のむすびよつくばねよ

伊藤清雄

●花供へ仏間へ通す秋の風  
剪定を終えて我が庭風通る

伊藤貴美子

●豪雨禍の山肌を這う冬の霧  
風音とまがふ波音大根干す

矢野孝子

多くの方の作品を募集していただきます。慈眼寺か総代の方にお渡しください



珍しい下弦の月

## ★仏教的観点からの生命☆

「はやぶさ2」という宇宙船が「リュウグウ」という小惑星に飛んでいき、何やらその岩のかけらをもって帰るのだという。2014年末に打ち上げられ、2018年の六月ごろリュウグウに到着。一年以上かけてそのあたりを探索し終わって、今年の十一月に帰路に着いた。来年末に帰ってくるという。その探査目的の一つに生命の起源を探ることがあるのだという。宇宙のどこかで作られた生命の原型みたいなものが、その小惑星に残っているというのだろうか。ウイルスの残骸みたいなものが見つかるのだろうか。

ところでウイルスというのは遺伝子だけしかない不思議な「生き物」である。遺伝子しかないのだから当然それだけでは「生きられ」ない。生きている細胞の中に入り込んでそのエネルギーを拝借して増殖をする。そして増殖という目的を達したら出ていく。宿主となった生き物は、ホンの風邪の症状で終わるものから、死んで

しまう物までいろんな反応を示す。遺伝子しか無いものを生き物と言っているのかは定義次第だが、行動だけ見ていれば完全な生き物だと言えるだろう。何だかウグイスの托卵にも似ているし、人間の社会にもありそうな話である。このウイルスの増殖はコピーを作っているだけで、積極的には何の変化もない。ただ、コピーの前後で宇宙線や薬剤などによって突然変異を起こす。こんな理由によって殺傷力の強いウイルスが誕生することもあるがそれはウイルスの知ったことではない。こんなのはほとんど単純な化学反応みたいなものだが、増殖という目的を持っているように見えるのである。

そしてこの遺伝子が自前で細胞という化学反応のための部屋をまとって生き物となることができる。自前でエネルギーを確保できる部屋があれば、増殖はずっと楽になるが、その分部屋の維持にコストがかかることになる。

さらに安定的にエネルギーを確保しようとすれば、それを

自分で作り出すことになり植物が登場する。それも単純な単細胞から、根、茎、葉といった分業的な組織を持ったものまで出てくる。さらには自分でエネルギーを作り出せなくても、ほかの生き物が作ったエネルギーを横取りするものも現れる。ということ、我が人間を含めた動物の登場である。この戦略だけを見れば、動物とはウイルスに近いのであろう。

面白いことに、動物や植物の細胞の中に沢山存在しエネルギーの使い易さを劇的に高めているミトコンドリアというのは、宿主とは別の生き物だということのだから驚きである。彼らは宿主の細胞に寄生し、その生きるのを手助けして、自分もどんどん増殖しているのである。まさしく共存といえよう。もしかするとすべての生き物は、このミトコンドリアに支配され、奉仕しているだけではないか。何しろ彼らは、よそ様の中に居候しながら、宿主のためにエネルギーの形を少しだけ変えてやっているだけでどんどん増殖させてもらえるのである。



つわぶき

単純な生き物なら条件さえよければ無限に生きられる。例えばクラゲなどより低級な動物には、原則として寿命はないそうである。植物だって一年で枯れてしまう草などは別として、病気にでもならない限りほぼ無限に生きることができるといえる。

しかし組織が高度になるほど避けられないのが死である。高級な生き物では数十回の細胞分裂しかできないという。つまり条件が良くても寿命は決まっているらしいのである。な

ぜ寿命を決めて長生きさせないのか。どうもそうした方が、生き物の種類として増殖に有利なのではないか。個人の気持ちはどうであれ、生き物としては種としての増殖が最も大事な目的なのである。つまりはそのくらの寿命にしておいて、次の繁殖は次の世代に任せた方が数は増えやすいということなのでしょう。生きている間に遺伝子がさまざまな突然変異を受け、それがためにその種としての性質が失われることも寿命のある原因なのでしょう。実際に細胞分裂の回数はテロメアという染色体の尻尾のようなものが、分裂ごとにだんだん短くなって、ついには分裂できなくなるのだそうです。つまり最後には消耗した細胞の埋め合わせが出来なくなると、その個体は死ぬのである。

このような寿命を決定する戦略から、植物では草の方が木より進化した形態だとされているのである。つまり、それが増殖に有利だという理由で。

では次世代はどうして作るのか。単純には細胞分裂でコピ

ーを作るということが考えられるが、これだと先ほど言った突然変異の影響は丸々残ってしまう。したがってうんと単純な単細胞生物くらいにしか使えないのである。結局は、今まで突然変異で傷ついた欠陥をクリヤして遺伝子を作り直すことが必要である。ということ別々の個体を持つている遺伝子から、健全な処だけを取り出し、遺伝子を再合成することが考えられる。早い話、有性生殖は「死」と引き換えに生き物が手に入れた手段だったのである。有性生殖のために死ぬのである。

もつとも、単細胞生物の「ゾウリムシ」というのは、分裂で増えるが、遺伝子の若返りは二匹のゾウリムシが寄り添ってお互いの遺伝子を半分ずつ交換して再生するのだという。これだとゾウリムシの体躯は死なないことになる。ただ交換して新しい遺伝子は前のものとは違うので、この時点で死んだと言えないこともなからう。有性生殖の原型ともいえる方法だが一般的ではない。

そろそろまとめておくと、生き物は高度なものになるにしたがって、遺伝子を健全に保ちながら増殖するために、有性生殖という方法を選択した。そのため世代交代をして死ぬ方法を取るようになった。つまり恋のために死ぬのである。なんとロマンチックなんだろう。

ということまでは分かったようであるが、なぜ生きているのか、なぜ生き物が生まれたのかは依然として不明である。地球が出来たころにうまい条件がそろって合成されてしまったのか、あるいは地球以外の天体から飛んできたか、ということになるのだろうか。それで後者だとしても、宇宙の歴史のどこかで出来たと考えればやはり謎は残されたままである。

とすればやはり人間様が合成でウイルスのようなものを作り出せるか、ということにかかっているのだろう。それが一粒でも作り出せて、自己増殖すれば、それが解答になるのだろう。それとも永遠のテーマとして、あるいはアラーやエホバ様にお任せしてしまうのか。

### 令和二年度年忌表

来年の年忌は次のとおりです。お早めにお申し込みください。

年忌	逝去年
一周忌	令和元年
三回忌	平成三十年
七回忌	平成二十六年
十三回忌	平成二十年
十七回忌	平成十六年
二十三回忌	平成十年
二十七回忌	平成六年
三十三回忌	昭和六十三年
三十七回忌	昭和五十九年
四十三回忌	昭和五十三年
四十七回忌	昭和四十九年
五十回忌	昭和四十六年

各戸別の年忌はホームページで見られます（過去帳閲覧）。

### 行事予定

- 二月十一日 大般若会
- 正午から詠讚歌奉詠
- 一時から法要、参拝者には健康饅頭がもらえます。
- 二月十五日 涅槃会
- 十時から法要と詠讚歌奉詠
- 四月八日 灌仏会
- 十時から法要と詠讚歌奉詠
- 甘茶を頂いてください。
- 八月十八日 お施餓鬼
- 棚経は八月十日くらいからです。詳しくは次号でご案内します。

## 来年もよろしく お願いします

檀方総代

伊藤辰男

伊藤久幸

伊藤秀文

伊藤正廣

大野和義

大野悟

木村廣孝

春日井浩道

春日井律舟

### ☆時事雑観★

どこの国も偏狭なナショナリズムであふれかえっている。まるで世界中がミニトランプのような指導者ばかりになって来た。つまり自分の国さえ良ければという人ばかりなのである。結局のところ、どこの国でも格差が激しくなり、その下層の人たちの不満を外国に向けさせる手段なのだろうか。俺たちの職を奪ったメキシコ人が悪いのだというように。その裏には資本主義の行き過ぎというのもあるのだろうか、もう少し理性的にできないものか。これでは大戦前夜のような雰囲気ではないか。おかしな国の独裁者は自分の地位を守るために何をするかわからないので気を付けなければ。

最近、公認のとばく場を持った統合リゾート施設が話題になっていきます。日本は昔からそういうのは禁止でした。バクチから抜けられなくなつて生活を壊してしまう人が出てくるからです。かけマージャンですら問題にされています。ところがそれを公認でやろうというのです。理由は儲かるから。どうも儲かるのはアメリカ人で、政治家には多額の政治献金が入るようなのです。横浜出身の有名政治家にそれが入るといので、前は消極的だった横浜市長も誘致に動いているとか。情けない奴らだ。

同じように大学入試の英語の共通テストを何とかいう企業に委託民営化する動きがあった。何かから今までそんな風に考えたくないが、これだって業者からの政治献金や役人の天下りを考えての話ではないか。政治化というのは政治献金が目的で政治をやっているのだからか。小選挙区制になってから政治家は本当に小粒ばかりになって来た。

ローマ法王(いつの間にか教

皇になつていた)が来られて核を持つことは犯罪だと言われた。そうだとおもうがみんなエゴの塊だ。疑心暗鬼で自分から先に放棄することはできないだろう。金さんを見るがいい。彼は放棄したら自分の命が無いと思つているようだ。結局何にも進展しない。

### お仏膳の受付をしています

来年の月命日お仏膳の受付をしています。今まで通り、一年一膳あたり千五百円です。お供えのお菓子はお下がりとしてお持ち帰りください。

### ★編集後記☆

令和になつて半年過ぎました。徳仁様もようやく天皇らしくなつてきたというより、こちらが天皇として見慣れてきました。雅子さまも落ち着いてこられたようで少し安心です。考えてみると、天皇というのは昔から大変なポストのようで、思いつきり自由にふるまえたのは天武天皇くらいのもものではなかつたか。後は、清盛や頼朝にびくびくしたり酒や女にお

ぼれたりでもしなければ、やつておられない地位だったのではないか。まあ、それは徳川將軍家についてもいえることだったのかもしれない。

総理大臣主催の「桜を見る会」というばかばかしいような会の運営が問題になつています。最初は国政に功労のあった人をねぎらう趣旨だったようですが、最近は政治家の後援会をゴツゴツ呼んで接待しているようです。日本では(だけでもないか)権力者に近いことがステータスだというようなことで群がるひとが多いようです。税金でなくて政治家の私費でやればいいのでしょうか。

今年もあとひと月です。令和はどんな時代になるのか。皆様には良い年になりますように。

「慈眼寺たより」 第二十七号

令和元年十二月十日 発行

ホームページ

←

←

<http://www.ma.ccnw.ne.jp/jigenji/>